

教育目標: ○すすんで学ぶ子 ○思いやりのある子 ○力を合わせる子 ○元気な子

目指す学校像: ○確かに学ぶ学校 ○安全・安心な学校 ○未来を創る学校 ○ともにある学校

目指す児童・生徒像: ○主体的に学び、自らの力を高め伸す子 ○自他を大切にし、心豊かに他者と協働する子 ○心身ともに健康に生活する子

目指す教師像: ○学校の役割を十分に理解し、家庭・地域と連携して教育活動に貢献する教職員 ○心身ともに健康な教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標		成果指標		今後の課題	学校関係者評価記入欄
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
確かに学ぶ学習指導	○学ぶ姿勢(学習規律)を身に付けさせるとともに学習の基礎・基本となる知識・技能を確実に習得させる。 ○「分かる」「できる」を実感したり、学ぶ楽しさや喜びを味わったりできる授業を展開する。 ○個に応じた指導、互いに学び合い高め合う指導を通し、多様性や自己の成長を認め合う機会を大切にする。	○基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 ○個に応じた指導、互いに学び合い、高め合う指導、タブレットPCの活用を推進・充実させる。 ○体験的・協働的な学習、探究的な学習を推進する。	・「主体的・対話的で深い学び」、「習得・探究・活用」「問題解決」の学習過程を取り入れた授業を推進する。 ・生活科や総合的な学習の時間を中心とした人的・物的資源を生かした協働学習・探究学習を推進し、国分寺学を充実させる。  ・タブレット型パソコンの活用、ICT機器等を効果的に活用し、「分かりやすい授業」「個に応じた指導」を行い、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 ・タブレット型パソコンを活用して「個別最適、協働(分かる・できる・つながる)」の授業を展開する。	4		4		○保護者アンケートでは、「主体的に学ぶ姿勢があまり見られない」という否定的回答が14%と高かった。また、児童の授業アンケートでは、体を動かしたり、自分の考えで楽しみながら進めたりする教科を好む傾向が見られ、暗記を必要としたり公式を活用したりする、学習の素地となる教科に困難さを感じる意見が多かった。児童が学ぶ喜びやできるようになる喜びを実感できる学習活動の工夫やさらなる授業改善を行っていく必要がある。 ○校内研究のテーマである「主体的・協働的に学ぶ児童の育成～学び合いを充実させるための工夫～」にむけて授業改善を進め、指導力を伸ばす。  ○学年に応じて表現活動、協働学習などの場面でタブレットPCの活用が進むよう、タブレットやICT機器を活用した授業を見学したり、使い方を研修したりしていく。 ○「個別最適な学び」としての「指導の個別化」あるいは「学習の個性化」を図れるよう工夫し、家庭学習との連携を図る。	・子供たちが、自ら学ぶことの喜び、達成感を味わうことのできる学習をすすめてほしい。 ・漢字や計算など、基礎は大切だと思う。自分の頭で考えることを育てるには、読む力、書く力を付けていくことが大事である。 ・正解、正答を求める傾向が強い昨今の流れの中で、科目にもよるが、多様な解があつていいこと、誤ったときは大きな学習のチャンスがあることを子供たちに伝えていきたいと思う。 ・少し調べれば誰かが答えを教えてくれる時代であるが、インターネットがつかないときどう動けるかを学ぶ必要がある。
				4		4			
安全・安心な生活指導	○「かけがえのない命」を心身の両面から守り、育む。 ○児童の心に寄り添い、健やかな心、豊かな心の成長を促す。 ○安全教育を充実させ、危険を予測し、回避する能力や他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育む。	○基本的な生活習慣や集団生活を営むためのルールを徹底を図る。 ○自他の心身を大切にすることを判断力・行動力を身に付けさせる。 ○いじめ防止・不登校対策の充実と徹底を図る。 ○保護者や地域、関係諸機関と連携した安全教育の取組を行う。	・「十小のきまり」「10の約束」の指導の徹底の徹底を家庭と連携して行う。 ・挨拶や相手を大切にすること、また挨拶や言葉遣いを大切に、暴力や暴言を許さない。体罰防止に努める。 ・毎月の笑顔チェックカード活用により児童の様子を把握したり、SOSを見逃さないよう日常のかかわりに細心の注意を払うなど、組織的にいじめ防止に取り組む。 ・「第3次学校安全の推進に関する計画」に基づいた活動(セーフティプロモーションスクールの考え方を取り入れた活動)を保護者・地域と連携して推進する。 ・「生命(いのち)の安全教育」の推進を図るため、第五中学校区の3校において研修や授業研究を実施する	4		4		○保護者アンケートでは、95%の肯定的な評価を得ることができた。児童がきまりを守り安全な生活を送っていること、また挨拶や言葉遣いなど相手を大事にする態度を身に付ける指導を引き続き大事にしたい。 ○児童アンケートでは、廊下の歩行について、学年が上がるにつれ、自己評価を厳しくしていた。できていてとろは、おおいにほめるなど全教職員で声掛けをし、安全意识と自信をもって生活できるようにさせる。 ○笑顔チェックカードの効果を確認し合い、継続して取り組んでいく。  ○保護者アンケートでは、肯定的な評価が96%であった。安全教育で取組んできた内容を具体的に家庭に周知したり、ともに活動していただいた成果だと考える。今後も、保護者、地域と連携した安全教育、また危機管理を徹底し、迅速な対応をとれるようにしていく。 ○「生命(命)の安全教育」の実践、避難訓練等、「自分の命を守るために考えて行動する力」だけでなく、「周りの人の安全に貢献できる力」も身に付けていくようにする。	・思いやりのある子を育てていくためには、地域で子供たちの育成について話し合う場をつつていく必要がある。 ・安全教育の成果が出てきてほしい。これを十小の特色ある教育として体系化し、継承して欲しい。 ・いじめはあるものとして扱い上げをされていると安心してはならない。これからはヒアリングできるような信頼関係を築いていけるとうれしい。 ・保護者への情報共有は大変かと思うが、それが信頼関係につながると思うし、解決につながると思う。 ・不登校の子が少ないというのはすばらしい。いじめ対策も手厚くて良いと思う。 ・中学校とのギャップをいろいろな場面で感じる。これからの連携で和らいでいけるといい。小学校での児童一人一人への丁寧な対応が中学まで続くことを願う。
				2		4			
豊かな心・たくましい体未来を創る	○困難なことにも立ち向かい、様々な人と協働して課題を解決していく、心身ともに健康で、たくましい心と体を育成する。 ○自分のよさを伸ばし、夢や希望につながる教育活動を展開する。 ○地域のよさ(人的・物的)を知り、それを大切にしようとする心や地域に貢献する態度を、家庭・地域と連携・協働して育む。	○特別支援教育や多様性・人権教育の学習を充実させる。 ○キャリア教育を推進し、自分のよさ・生き方について考える機会を設けたり、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けさせる。 ○「体力の向上」「食」の大切さを理解し、健康な生活を送ることができるようにする。	・道徳教育・人権教育、多様性の理解教育を充実させる。 ・ゲストティーチャーによる授業や自分のよさや協働するよさを感じる授業を充実させ、キャリア教育・アントレプレナーシップ教育を推進する。 ・音楽や発表など表現する機会を積極的に設けるとともに、学級活動、委員会活動を充実させ、児童の自主的な活動を推進する。  ・児童による委員会活動や休み時間の有効活用により、「楽しみながら運動に親しむ機会」の日常化に取り組む。 ・元気チェックカードの活用や栄養士と連携した食育を充実させ、健康な心身を培っていくこととする意識を高める。	2		4		○保護者アンケートでは、肯定的な評価が94%であった。ゲストティーチャーによる授業を含め、一人一人のよさを生かすことを大切に人権教育、多様性を認め合う理解教育に取り組んでいく。また、道徳授業地区公開講座では、家庭や地域と連携した道徳教育を展開する。 ○学校公開、学習発表会など外部人材の協力をいただく機会を増やすとともに、児童や保護者の意向を取り入れた地域人材の活用などにも取り組む。  ○保護者アンケートでは、97%の肯定的な評価を得られた。体力づくりや食育を推進する教育活動への評価が高かった。「元気チェックカレンダー」は、児童の実践に加え、家庭からの一言を記載する欄があること、給食のメニューは、毎月5回程度で発信したりしていることが要因の一つではないかと考える。引き続き、生活指導や保健指導の中で、「健康づくり」を大切にしたい取組を実施する。 ○体力向上とともに、病気になるない体づくり(健康な体づくり)にも視野を広げていく。	・子供たちが自発的に興味をもてる分野を広げていくために、協議会委員としてできることがあればやっていきたい。 ・教員の皆様の管理職への信頼の高さがうかがえる。OJT、若手育成に力を注いでいることうれしく思う。先生だけが先生を育てるのではなく、家庭、地域も含めて一人前の教師に育てられる体制を作りたい。 ・給食の楽しみを増やすなど、子供たちが学校に行きたいと思える活動が多いことに興味もった。 ・食に関して子供のころから楽しく教えていただいていることは良いことだと思う。
				4		4			
家庭・地域とともにある学校	○児童の学びや育ち、教育活動の様子について保護者や地域と情報を共有するとともに、学校のあるべき姿を共に考える。 ○人的・物的な教育資源や教育環境を生かし、より地域との関わりを充実させた教育活動を行う。 ○児童・教員・保護者・地域、学校に関わる全ての人が、第十小学校の教育活動に信頼を寄せ、ともに活動する学校を推進する。	○児童の学校生活や取組の様子がよく分かるよう「学校だより」や「学校ブログ」を充実させる。 ○コーディネータとの連携し、コミュニティスクールとしてのよさを生かして教育活動を充実させる。 ○コミュニティスクール協議会委員・保護者・教職員・児童を対象とした学校評価を実施し、PDCAサイクルによる改善を図る。	・学校ホームページ、学校ブログによる教育活動の様子の適宜発信等、情報を分かりやすく伝える。 ・まなびポケットを活用するなど、保護者との日常の連絡などを丁寧に行い、保護者とともに児童の成長を支える。  ・コーディネータやコミュニティスクールの組織を活用し、保護者や地域人材が積極的に教育活動に参画するなど、コミュニティスクールとしての充実を図る。 ・コミュニティスクール協議会委員、保護者、教職員による学校公開や行事等の実施後アンケート結果を生かし、教育活動の改善・充実を図る	4		4		○保護者アンケートでは、96%が肯定的な評価であった。「学校ブログ」や「まなびポケット」を活用して、学校の様子を伝えてきた成果であると考えられる。 ○学校評価は別に、「学校ブログをどのくらい割合で見ているか」を調査したところ、学校ブログの更新はほぼ毎日であるのに対し、月に2、3回との回答が48%で一番多かった。全く見たことがないという回答もあった。受信頻度を上げていく策を講じたい。  ○コミュニティスクール設置校となつて間もない中で、保護者アンケートの肯定的な評価は、93%と高かった。学校支援コーディネータと連携した、「十小ボランティア」の活用組織化を図っていく。 ○全教職員、コミュニティスクール協議会委員、地域、保護者、児童との熟議を行い、コミュニティスクールとしての目標・方向性を確認する。	・地域が協力して行っている盆踊りや防災会との消火訓練などに参加してもらうことで、地域の安全・安心につながるのではと思う。 ・コミュニティスクールに関してはこれからだと思う。まずは自分たちが自律的に学校を作っていくのだという認識を皆さんにもっていただくことが大切である。 ・定期的にコミュニティスクールの会を学校の先生たちと開きたい。 ・子供たちの力を信じて育てる、子供たちとともに大人も育つ関係をコミュニティスクールで実現できるといい。
				2		4			